

目的

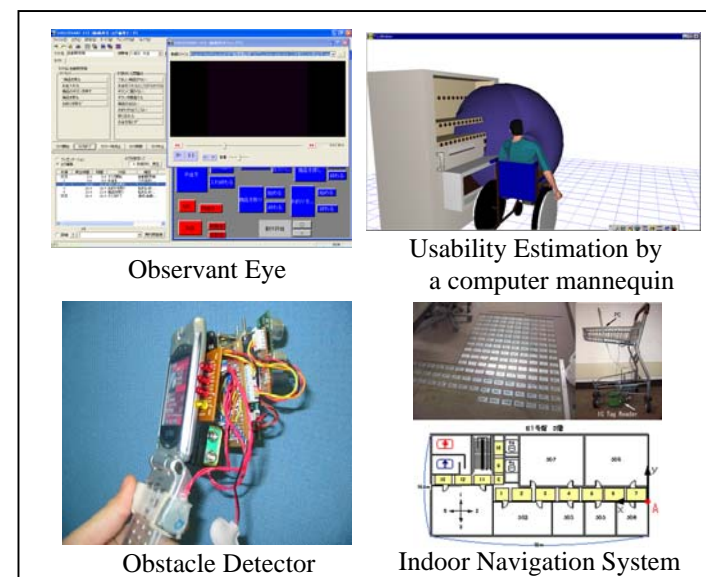
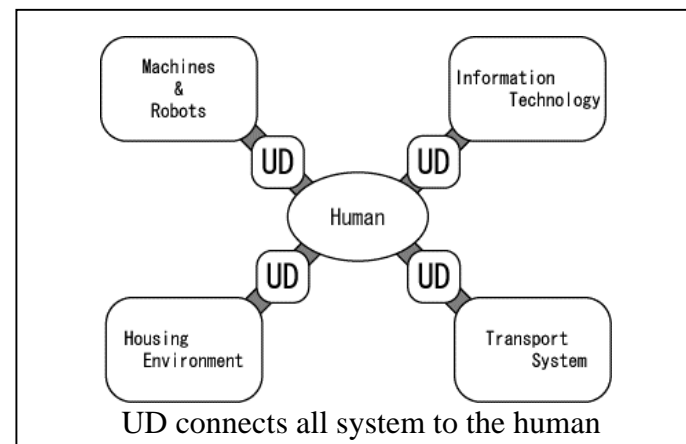
高齢者・障害者のニーズを考慮したすべての人に使いやすい製品の開発と普及
Development and spread of easy-to-use products for all the people in which the needs of the aged and the handicapped are considered.

問題設定

- 本分野におけるユーザビリティとは何かを明らかにする。
- ユーザビリティの視点から機器・情報システムを開発する。
- それらのための要素(基幹)技術を開拓する。
- 機構・制御の工夫によって機器製品を使いやすく、安全なものにする。
- みんなに親しまれるヒューマンマシンインターフェースを構築する。
- UD設計法を導出し、普及する
 - We clarify what is “Usability”. We develop the machinery and the information system from a viewpoint of “Usability”, and explore the basic technique for it.
 - Make a machinery product easy to use and safe.
 - Make a friendly human machine interface.
 - Development and spread of the design method of universal design.

技術領域

- ユーザビリティ評価 Usability Estimation
- ヒューマンマシンインタフェース Human Machine Interface
- 交通システム, 住環境システム Transport System, Housing Environment System
- 軽量化, 安全性向上, マニュアルレス Lightening, Rise in Safety, Manual less



部会主査:神奈川工科大学 吉留 忠史 yosidome@rm.kanagawa-it.ac.jp

委員:河原崎徳之(神奈川工大・副主査), 田中孝之(北大・幹事), 西原主計(神奈川工大) ほか, 全14名